

2020年4月～2023年3月「社会へのチャレンジ」の取り組みについて

教区創立 90 周年から 100 周年へ

2014年から教区創立100周年を迎える2023年にかけて、「チャレンジ 新しい宣教 ～わたしをお使いください～」を教区宣教司牧テーマとして掲げ、①家庭へのチャレンジ（2014年～2016年）②教会へのチャレンジ（2017年～2019年）とサブテーマを設定してわたしたち広島教区民は宣教司牧活動をおこなってきました。

100 周年に向けて仕上げの時

2020年からは新たな段階である③社会へのチャレンジ（2020年～2022年）を迎えます。

2017年～2019年までの教会へのチャレンジで

- （1）人々の救いを祈る使命（祭司職）
- （2）福音を伝える使命（預言職）
- （3）隣人に使える使命（王職）

という三重の使命を担える霊性・福音宣教活動について養成されてきた私たちは、2020年からの教区宣教司牧活動サブテーマの舞台であり、私たちの生活の場である「社会」で、祭司職、預言職、王職を実践することを特に意識する3年間となります。

目標

「社会へのチャレンジ」においても1年ごとの目標が2019年6月開催の教区宣教司牧評議会決定されました。これは、教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』を土台して

- （1）いのち（神との関係）（2020年4月～2021年3月）
- （2）環境（自然との関係）（2021年4月～2022年3月）
- （3）平和（隣人との関係）（2022年4月～2023年3月）

と設定されています。

教皇フランシスコからの勇気

教皇フランシスコは「創世記の中の創造記事は、それぞれ象徴的で物語的な言語で、人間存在とその歴史的現実についての意味深長な教えを語ります。密接に絡み合う根本的な三つのかかわり、すなわち、神とのかかわり、隣人とのかかわり、大地とのかかわりによって、人間の生が成り立っていることを示唆しています」⁽¹⁾といわれました。

また、この度の教皇フランシスコの日本司牧訪問テーマは、ラウダート・シをもとに「す

⁽¹⁾ 教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ』66

すべてのいのちを守るため～PROTECT ALL LIFE」とされ、そのテーマ説明文に「わたしたち日本の教会は、あらゆるいのちを守り、人間の生の諸問題に真摯に取り組むべく努めています。キリストが示されたいのちの福音を告げ知らせ、キリストによる平和のために祈り働くその決意を、教皇来日のテーマは表しています」⁽²⁾とあり、教皇の日本司牧訪問中のメッセージ・説教・談話は日本の教会を勇気づけるものとなりました。

教皇フランシスコは長崎での司牧訪問ミサ説教で「わたしたちの信仰は、生きる者たちの神への信仰なのです。キリストは生きておられ、わたしたちの間で働かれ、わたしたち皆をいのちの充満へと導いておられます。キリストは生きておられ、わたしたちに生きる者であってほしいと願っておられるのです。キリストはわたしたちの希望です（使徒的勧告『キリストは生きている』1参照）。…宣教する弟子としての使命が、来るべきものの証言者や使者となることならば、…神の国のパン種となるよう駆り立てるのです。聖霊が人々の間に希望の風として吹き続けるための、小さな通気口となることです。…病気や障害のある人、高齢者や見捨てられた人たち、難民や外国からの労働者、彼らを取り囲んで大抵は黙らせる無関心の脇で、今日それを生きるのです。彼らは皆、わたしたちの王、キリストの生きる秘跡なのです（マタイ 25・31-46 参照）。…わたしたち一人ひとりが決断することです。沈黙か、嘲笑か、あるいは告げ知らせるか」⁽³⁾と語られました。わたしたち広島教区では2020年11月に「ともに喜びをもって福音をのべ伝える教会へ」をテーマに教区代表者会議がおこなわれます。沈黙や嘲笑ではなく、福音を告げ知らせる教会へ刷新することを願っています。

活動の例示等

2020年から始まる「社会へのチャレンジ」の最初（2020年4月～2021年3月まで）の目標は、「いのち（神との関係）」です。平和の使徒推進本部では、新たに「いのち（神との関係）」に関わる活動を作るのではなく、すでに各小教区、信徒グループ、地区等でおこなっている「いのち（神との関係）」に関する活動に焦点をあてて、多くの広島教区民が「いのち（神との関係）」を意識して活動することを願っています。

活動のヒントとして、日本カトリック司教団が発行した「いのちへのまなざし」を参考に、下記の活動例を列記します。

- 一 生と死の尊厳に関わるもの
 - ・人工妊娠中絶
 - ・孤独死・自殺の防止・阻止の啓発活動
 - ・死刑廃止
 - ・高齢者や障がい者等の介護・養護
 - ・医学における生命倫理問題

⁽²⁾ カトリック中央協議会「教皇フランシスコ日本司牧訪問テーマ説明文」

⁽³⁾ 教皇フランシスコ「日本司牧訪問長崎でのミサ説教（2019年11月24日）」

- ・エンブリオ基金
- ・上記以外の生と死の尊厳に関する活動

二 いのちを脅かすものに関わるもの

- ・炊き出し活動
- ・夜回り活動
- ・街頭募金活動
- ・児童虐待防止・里親、DV対策、ひとり親家庭の支援
- ・移住移動者の保護
- ・外国人研修生・外国人技能実習生問題・支援
- ・生活困窮者の援助
- ・戦争・紛争、核兵器・大量破壊兵器廃絶、被爆者・戦傷病者の援助
- ・公害問題、公害被害者支援
- ・環境破壊・原子力発電所問題、自然災害・原子力災害被害者支援
- ・上記以外のいのちを脅かすものに関する活動

など。

上記に関する取り組みや類似活動の報告を平和の使徒推進本部では、受け付けます。なお、報告のあった活動は、他の小教区や地区等の活動を助けとなるよう平和の使徒推進本部だより（ガウデーテ）等で可能な限り紹介していく予定です。

司祭や助祭は、司牧の一環として、時々、主日ミサにおいて、社会へのチャレンジを主題とした説教（カテケージス）をお願いします。

以上

2020年01月11日
（平和の使徒推進本部）